

このコーナーでは長年、市内の小中学校で教職にあつた蛭田光城さんが市立図書館発行の「成田のむかし」に執筆した成田の昔の暮らしの様子を掲載していきます。



# 祇園祭

文 蛭田光城  
ひるたみつき

絵 野上和彦

ある祇園祭<sup>\*</sup>の夕方のこと、成男とおじいさんはごはんを食べていました。するとおじいさんが、

「成男、ドン、ドン、ドン。ドドドン、ドン、ときこえてくるだろう。あれは天王様の行進曲だよ。今日は隣の区のお浜降りだな。」といいました。

「オハマオリって何なの。」と成男がたずねると

「天王様を、川や沼までかついで行って、きれいにお清めすることさ。川や沼の水きわ、つまり浜まで降りて行くのでお浜降りさ。」

「なぜ太鼓をたたくの。」

「『天王様は、はやすが大好き』といわれているように、勇ましいのが大好きなんだって。それにたたいている太鼓の高さに、顔をもつていってごらん。胸の中まで振動が伝わって、わくわくしてくるよ。祇園祭というのは、もともと疫病<sup>えびや</sup>(流行病伝染病) 神を追い払うお祭なんだ。だから威勢がよくないけりやね。」

「だから、ワッショイ、ワッショイってやるの。」

「そうだよ。大人の人は御神酒<sup>おみき</sup>をいただいて、景気をつけるんだ。あんまり元気がよくなりすぎて、天王様(御神輿<sup>おみこし</sup>)が、あっちへ行ったなと思うと、こっちへ逆もどりにきたりするんだよ。むかしはけんかなどもよくあつたんだ。なかでも、寺台の祇園祭はなかなか威勢のいいものだったよ。」

「おじいさんも、天王様、もんだの。」

「ああ、隣の区へ行ってね。下駄をぬいで、着物をぬいで、シャツとパンツでもむんだ。ぬいだ下駄や着物は友達にあずける。二、三軒回ると、着物を持つのを交替して、友達かもむんだ。」

## 編集後記

わたしの住んでいる区でもリサイクル活動をしています。最近市ではごみを出さないリデュース(発生抑制)に力を入れています。CO<sub>2</sub>の抑制も地球規模で考えていかなければならず、一人一人の意識改革がないと難しい問題です。個人的には、日本の食文化の一つでもある割り箸や、落ち葉で作る焼き芋がなくなってしまうのは何とも淋しい限りです。



成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。

## ※【祇園祭】

今から千百年位前京都では、毎年夏になると流行病が発生して、たくさんの人々が亡くなりました。そこで病魔にご利益があるという、兵庫県広峰の牛頭(ごず)天王の仏様を、京都の祇園にお呼びして、お寺を立てたのが始まりとされています。